

【パブリックコメント素案】

国営備北丘陵公園管理運営ビジョン

～自然や文化を思いっきり楽しみ、
地域と共に元気を生み出す公園～

令和7年1月

中国地方整備局

目次

第1	ビジョンの位置づけ・目的	3
1.	管理運営ビジョン策定の背景・目的	4
2.	管理運営ビジョンの位置づけ	5
3.	本ビジョンの構成	6
第2	公園の概要と果たしてきた役割	8
1.	公園の概要・特性	9
2.	公園の果たしてきた役割	12
第3	公園の現状と課題	16
1.	公園に対するニーズ	17
2.	公園を取り巻く状況	18
3.	公園に期待される価値	21
4.	管理運営の方向性	22
第4	望ましい公園のあり方	24
1.	備北丘陵公園の目指す姿	25
2.	望ましい公園の管理運営のあり方	27
3.	エリアごとの取組の方向性	28
4.	エリア間の連携の考え方	36
第5	ビジョンの推進方法	40
1.	ビジョンの実現に向けた推進のしくみ	41

第1 ビジョンの位置づけ・目的

1. 管理運営ビジョン策定の背景・目的
 2. 管理運営ビジョンの位置づけ
 3. 管理運営ビジョンの構成
- コラム① 主な既存計画との関係

管理運営ビジョン策定の背景・目的

（１）公園整備からこれまで

- 国営備北丘陵公園は、中国地方のほぼ中心に位置する広島県庄原市に中国地方初の国営公園として、平成7年に第一期開園、平成24年に整備を終えて全面開園し、1,200万人を越える入園者をお迎えしています。
- この間、中国地方の大規模都市公園のパイオニアとして広大かつ自然あふれるロケーションを背景に、他公園に先駆けた大型複合遊具の設置や大規模な花修景の展開、オートキャンプ場をはじめとする多様なアクティビティの場や中国地方の伝統文化とのふれあい機会を提供するとともに、防災力の向上・健康福祉の進展にも寄与してきました。

（２）時代の変化の中で求められる公園のすがた

- 管理運営段階となっている本公園の機能を最大限発揮し、引き続き公園利用者に喜ばれる公園であり続けるためには、限られた予算の中で、老朽化しつつある公園施設の機能を効率的に向上させるとともに、社会の変化に柔軟に対応しながら、地域活性化など公園に求められる役割に適切に対応することが求められています。そのためには、民間事業者のノウハウを積極的に活用した質の高い公園サービスの提供も求められています。

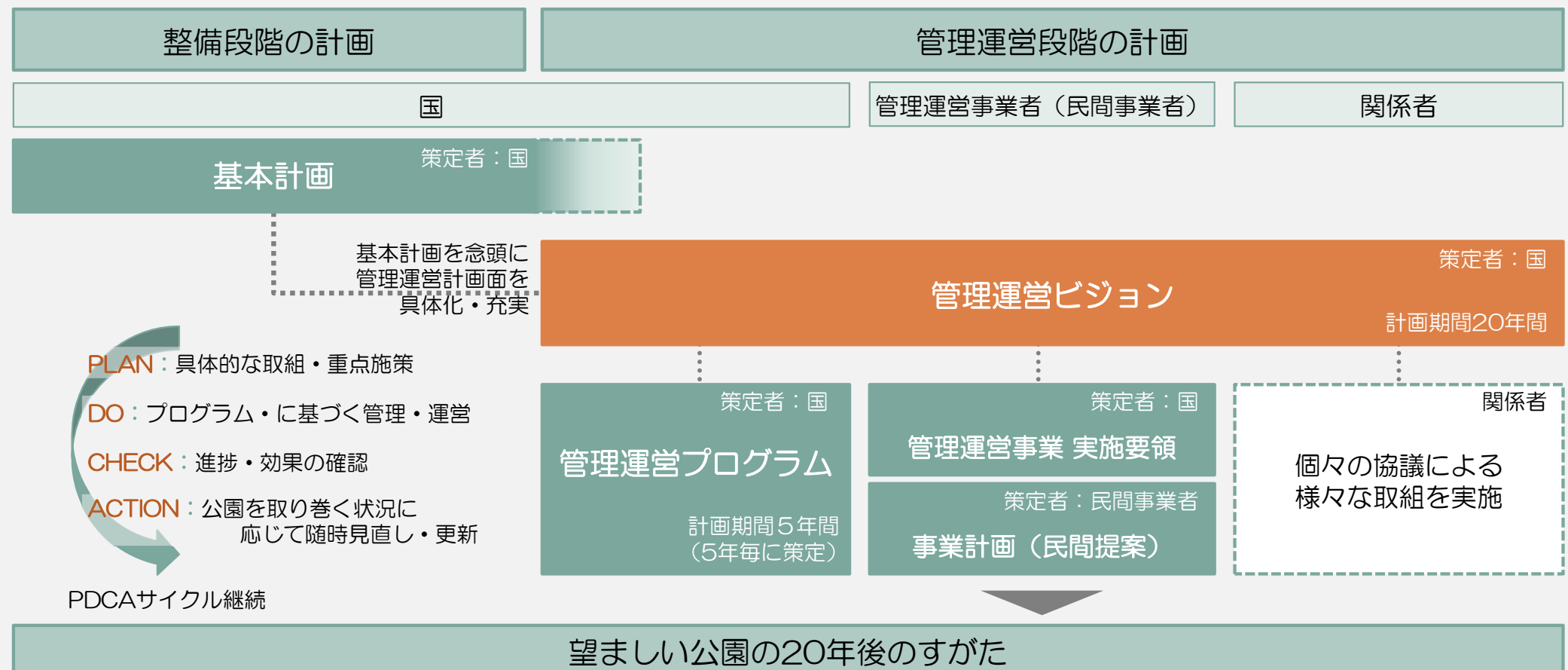
（３）ビジョンの策定に向けて

- 地域や民間事業者とのより一層の連携のもと、共に歩みながら公園を管理運営するためには、公園の今後の管理運営の方向性（ビジョン）をあらためて整理し、共通の目標として取り組む必要があります。
- これを踏まえ、中長期的に目指すべき公園管理運営の方向性として、公園利用者に引き続き提供すべき価値・体験・サービスや、今後一層伸ばしたいサービス等について具体化し、公園管理の担い手や公園づくりに関わる周辺地域が共有することを目的に、「国営備北丘陵公園管理運営ビジョン」を策定するものです。

公園の管理運営を具体化させるビジョン

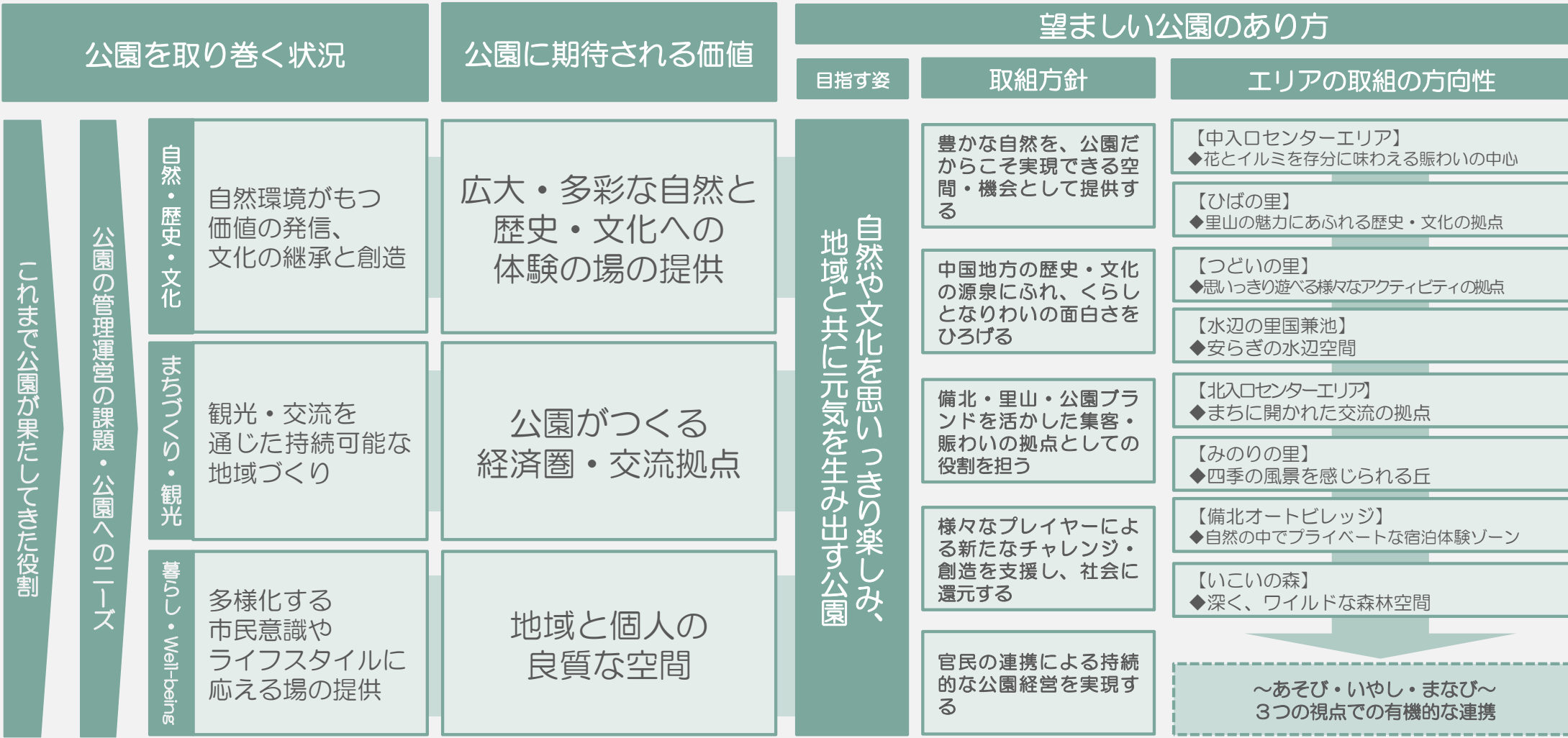
- 管理運営ビジョンは、当面の公園の管理運営計画の根幹として、概ね20年間の方向性を定める中長期的指針であり、公園を運営するみちしるべとして公園管理者、管理運営に関わる民間事業者、地域の関係者が共有し、これを踏まえて協働・共創することを想定しています。

国営備北丘陵公園管理運営ビジョンの位置づけ



管理運営ビジョンの構成

➤ 本ビジョンは、公園を取り巻く社会的な要請や今後の管理運営上の課題、公園を利用する各種ニーズを踏まえて整理される「公園としてどうあるべきか」「どんな課題があるか」より「望ましい公園のあり方」として目指す姿とその実現にむけ「どのようなことをするべきか」を示す取組方針及び取組の方向性により構成します。



コラム：主な既存計画との関係

- 管理運営ビジョンと関連する主な既存計画として、上位計画としての基本計画、ビジョンと相互に連携する管理運営プログラムが挙げられます。
- 基本計画では、「周辺環境との調和と連携を図り、森と湖に囲まれた緑豊かな自然の中で、中国地方の歴史や文化のふれあいや多様なレクリエーション活動を通じて、人間性の回復と向上の場となるような公園」となることが定められています。
- 管理運営プログラムは、管理運営における5箇年の重点的な取り組みを短期的計画としてとりまとめています。

基本計画

基本テーマ

ふるさと・遊び

基本理念

1. 緑豊かな自然へのいざない
2. 中国地方の歴史や文化とのふれあい
3. 多様なレクリエーションへのしだしめ
4. 周辺環境とのつながり

基本方針

1. 国兼池を中心とした湖畔景観や、丘陵景観等の自然を生かした公園
2. 中国地方の古い文化の継承や、新しい文化をはぐくむことのできる公園
3. 四季にわたる多様なレクリエーションに対応できる公園
4. 中国地方の全域から利用できる公園
5. 地域とのふれあいのできる公園

管理運営プログラム

令和7年度 までの重点 事項

1. 中国地方の歴史文化の保存・継承及び自然環境の保存・活用を図るため、体験学習の場の提供と体験プログラムの充実
2. 公園及び周辺地域の活性化を目指し、観光等の関係団体との連携・協議体制の強化
3. 協働による公園管理を通じた地域の担い手育成
4. 誰もが安全で安心して利用できる公園づくり

令和7年度 までの管理 運営方針

1. 地域の多様な団体等と連携し、自然環境と四季折々に展開する花や緑の演出、中国地方に伝わる歴史文化の保存・継承を行うためのプログラムを利用者に提供
2. 広域観光推進のため、周辺地域の魅力を積極的に発信

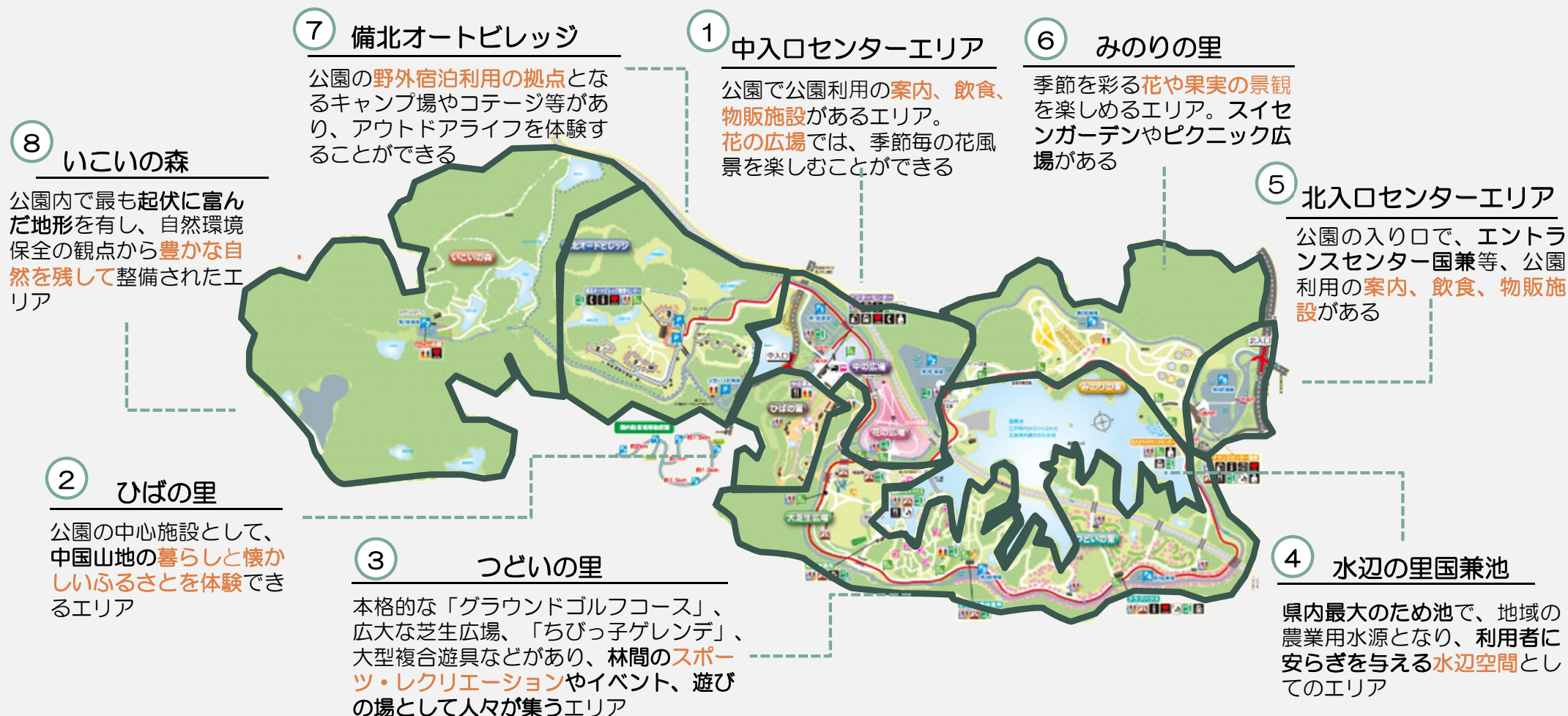


第2 公園の概要と果たしてきた役割

- 1. 公園の概要・特性
- 2. 公園の果たしてきた役割
- コラム② 公園周辺の観光資源
- コラム③ 里山の価値

8エリアの整備現況

- 備北丘陵公園は、一部エリアの再編を行いながら順次開園してきました（平成24年全面供用）。
- 公園は8エリア（①中入口センターエリア、②ひばの里、③つどいの里、④水辺の里国兼池、⑤北入口センターエリア、⑥みのりの里、⑦備北オートビレッジ、⑧いこいの森）で構成されます。



備北丘陵公園の概要

- 国兼池とアカマツ林の丘陵地約340ha(東西約3.5km、南北約1km)に、中国地方全体からの誘客を目指してつくられた、中国地方では初めての国営公園です。
- 公園では数多くのイベントが年間を通じて開催されています。

名称	国営備北丘陵公園	事業着手年度	昭和57年度
種別	Ⅰ号国営公園 (都市公園法第2条第1項第2号)	供用開始年度	平成7年度
		公園管理者	中国地方整備局
所在地	広島県庄原市三日市町4-10	敷地面積	約338.8ha



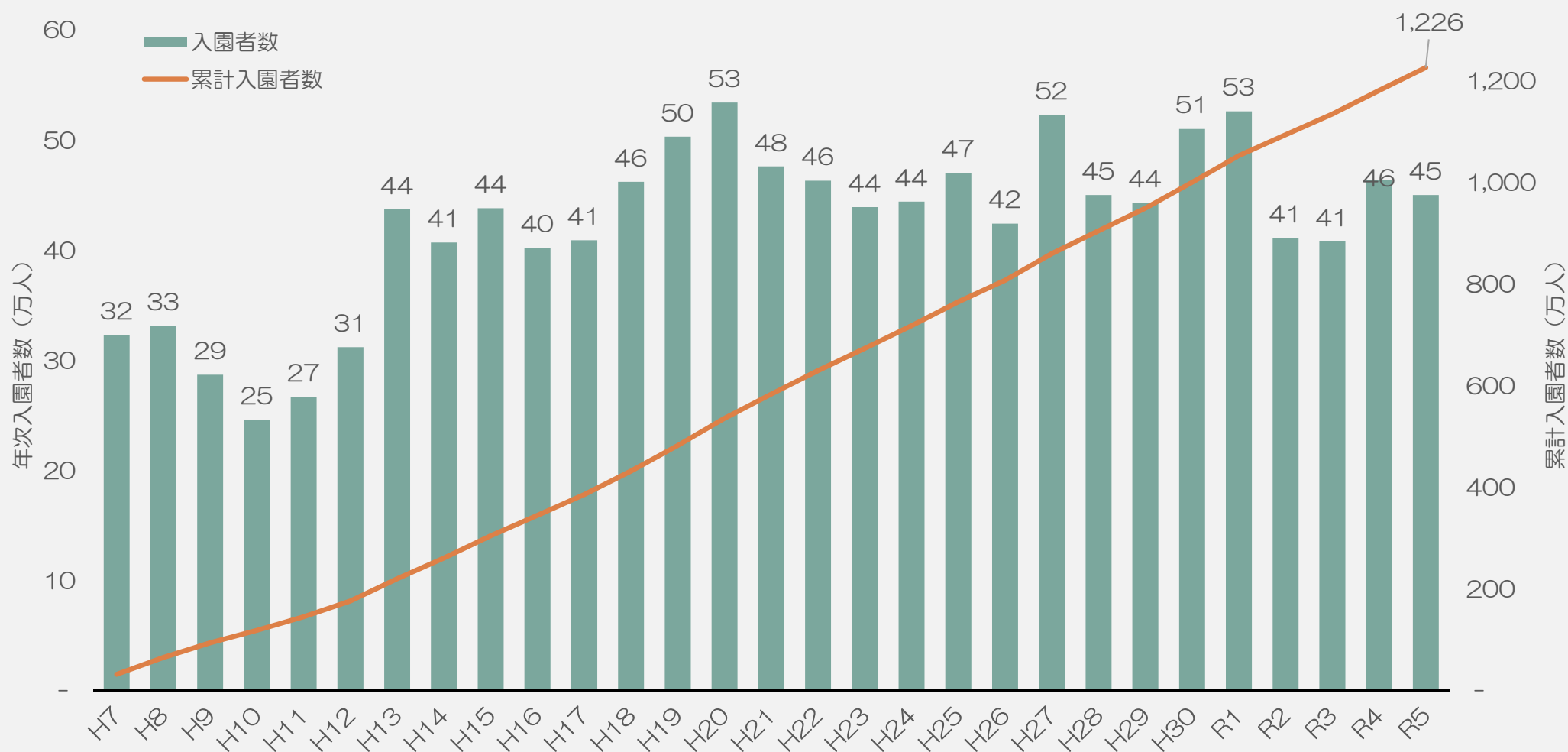
公園の位置

4月	5月	6月	7月	8月	9月
備北花ピクニック 	初夏の花物語 		備北夏まつり  		備北コスモスピクニック 
10月	11月	12月	1月	2月	3月
備北コスモスピクニック 	備北イルミ  		冬咲きばたん展 		備北花ピクニック 

年間40万人超の公園利用者

- 公園の入園者数は、平成7年の第一期開園以降、概ね増加傾向を辿り、平成20年代にピークを迎え、「コロナ禍」以後は年間40～46万人前後で推移しています。

入園者数の推移



豊かな自然環境と多様な活動の場を提供してきた公園

➤ 公園は、①自然・環境・文化、②まちづくり・観光、③暮らし・Well-beingの観点から、里山の自然環境や歴史・文化を活かした体験・サービスや活動の場・機会を提供してきました。

自然・
環境・
文化

自然環境の
保全

- ・ 豊かな里山環境や国兼池の景観を生かした計画・整備
- ・ 「生物多様性保全上重要な里地里山」として動植物の希少種の保全、生育場を提供

歴史・文化
の保全活用

- ・ 里山景観を再現したエリアを整備し、里山文化の保存・継承
- ・ 「たたら製鉄」や地域の年中行事等の文化体験プログラムの提供



いこいの森
-エヒメアヤメの保全



ひばの里
-たたら鉄づくり体験

まちづ
くり
・観光

周辺地域と
の連携

- ・ 地域の情報発信やイベント開催等、庄原市の地域活性化に貢献
- ・ ボランティアをはじめとする地域の公園管理の担い手を育成し、入園者と地域とのふれあいの場を提供

観光の振興

- ・ 大規模～地域密着型まで多数のイベントに開催場所を提供
- ・ 花修景・イルミネーション等、地域観光に貢献
- ・ 観光拠点として備北地域での誘致能力を発揮



-花火大会の様子



つどいの里
-野外ライブ

暮らし
・Well-
being

公園利用者
の健康増進

- ・ 広大な園地や多様なエリアを展開
- ・ 季節を通じた多様なアクティビティの機会を提供し、公園利用者の健康増進に寄与

防災性の
向上

- ・ 庄原市指定緊急避難場所、緊急災害対策派遣隊の前線基地・活動拠点に指定し総合防災訓練や避難訓練の場として防災性向上に寄与



国兼池
-フィッシング・サイクリングの様子



-庄原市総合防災訓練の様子

コラム：公園周辺の観光資源

➤ 公園の位置する庄原をはじめとする備北地域では、豊かな自然観光資源（景勝地等）や文化資源（神楽や里山風景等）に恵まれ、自然を活かしたトレッキングやスキーなどのアウトドア体験も観光資源となっています。また、農畜産も盛んであり、ブランド化も進んでいます。



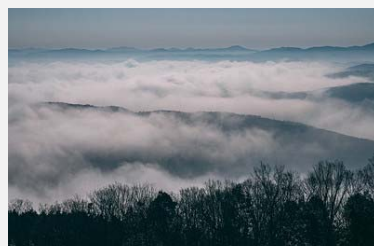
道の駅たかの



食彩館しょうばらゆめさくら



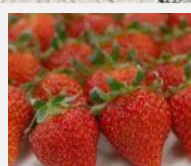
七塚原高原・ポプラ並木



高谷山 霧の海



比婆牛



夏秋いちご



比婆荒神神楽



比和 三河内の棚田



帝釈峡



比婆山

出典：「第2期庄原市観光振興計画（庄原市）」「比婆いざなみ街道（庄原市）」、一般社団法人 庄原観光推進機構HP (<https://www.shobara-info.com/2817>)、一般社団法人 三次観光推進機構HP (<https://www.miyoshi-dmo.jp/takataniyama/>)

コラム：公園周辺の観光資源

- 備北地域の観光振興の動向は、いわゆる「コロナ禍」からの回復が着実に進んでいます。特に公園が位置する庄原市の観光客数対前年比は106%、観光消費額113%となっています。

備北地域（庄原市、三次市）の観光客数等

		R5	R4	R5/R4
庄原市	観光客数（千人）	2,115	2,001	106%
	宿泊客数（千人泊）	128	113	113%
	観光消費額（百万円）	4,617	4,083	113%
三次市	観光客数（千人）	2,146	1,921	112%
	宿泊客数（千人泊）	172	155	111%
	観光消費額（百万円）	7,076	6,278	113%

参考：庄原市の来訪者数ランキング（令和5年）

	利用者数（千人）
備北丘陵公園	457
道の駅たかの	418
食彩館しょうばらゆめさくら	176
帝釈峡	127
桜花の郷ラ・フォーレ庄原	98

参考：庄原市の観光消費額ランキング（令和5年）

	消費額（百万円）
道の駅たかの	598
桜花の郷ラ・フォーレ庄原	477
備北丘陵公園	353
休暇村帝釈峡	281
食彩館しょうばらゆめさくら	220
道の駅遊YOUさろん東城	107

※交流拠点施設はレジ通過者

※交通費を除く

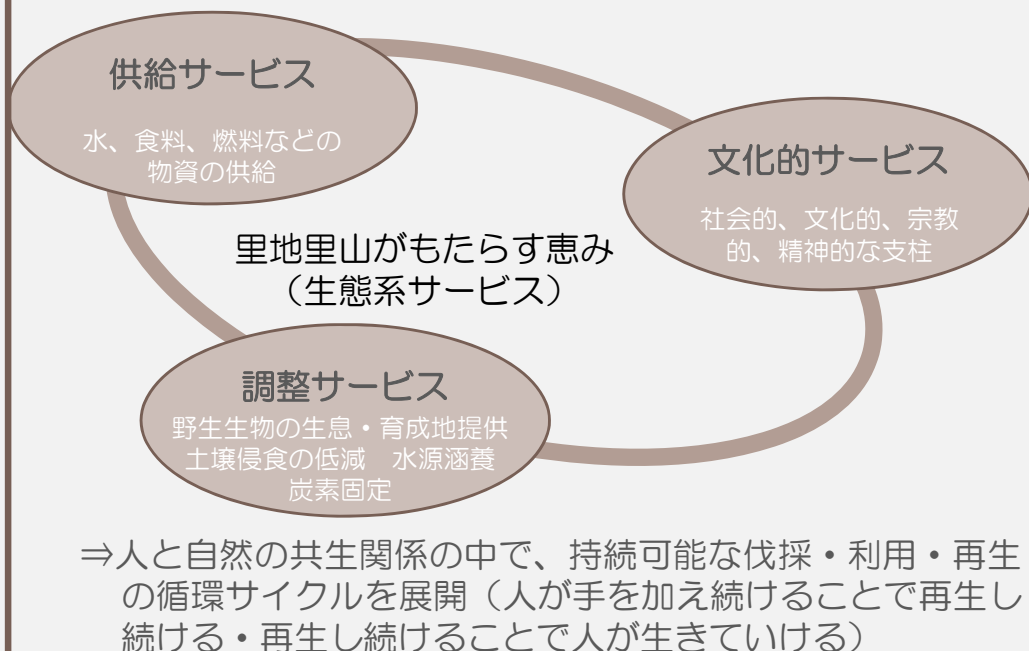
出典：「広島県観光客数の動向（一般社団法人広島県観光連盟）」、「R5年庄原市観光統計調査（1月～12月）（一般社団法人庄原観光推進機構）」より作成

コラム：里山の価値

- 里山とは、長年にわたる人と自然の関わりを通じて形成され、人の手が入ることで存続する二次的自然を指し、持続可能な未来につながる自然と人の共生像として、近年は新しい価値・体験の場として注目を浴びています。
- こうした里山の暮らしを体験できる場所として、ひばの里は整備・管理運営されてきました。

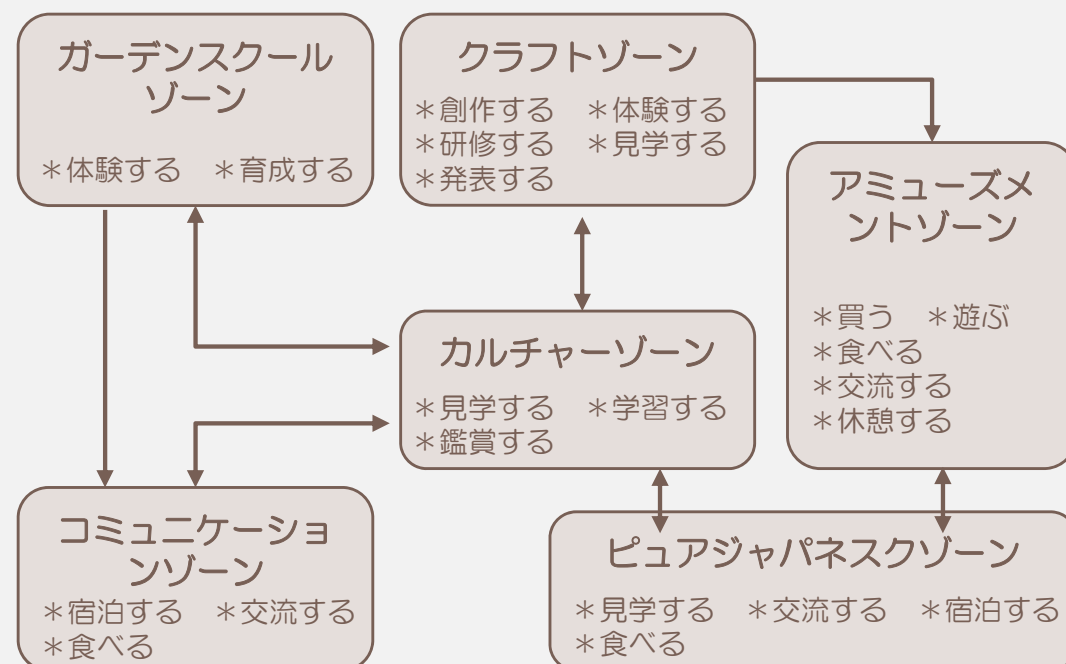
里山の価値

- 里山は、多様な生物の生息・生育環境として、自然と都市の中間に位置し、集落とその二次林、混在農地、ため池、草原などで構成される。
- 食料や木材など資源生産の場となるだけでなく、様々な動植物の生息・育成の場、水源涵養や国土保全、癒しや楽しみの場の創出、文化の伝承等の観点からも重要な役割を果たしており、人と里山の関わり続ける必要がある。



基本計画における文化の里（ひばの里）のゾーニング計画

- ひばの里は、ゆるやかな丘陵とアカマツの林、のどかな田園風景の中で、利用者が気軽に日本の伝統文化や工芸に触れ、創作活動を体験できる場として計画された。
- 現在は、里山の中で自ら育て・作り、使い・食べる一連の自給自足の暮らしが体験できることを念頭に、田畑やさつやま屋敷、神楽殿・参集殿、工房群で構成され、田畑での育成・収穫、収穫物を利用した食品やアート、遊び道具の制作・体験プログラムを提供している。



第3 公園の現状と課題

1. 公園に対するニーズ
2. 公園を取り巻く状況
3. 公園に期待される価値
4. 管理運営の方向性

コラム④ 公園から始まっている
新しい取組の紹介

公園に対するニーズ調査とその結果

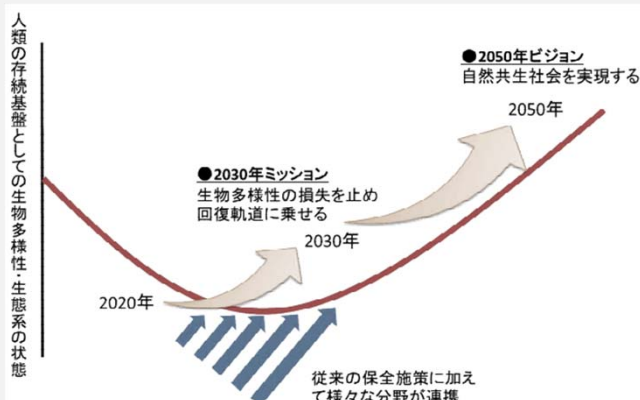
		結果概要
利用者	利用実態調査	- 県内の利用者が8割を占め、利用満足度は95%と高い - 入園者の44%は30～40代、ファミリー層が67%、年に1回～数年に1回の利用が過半数を占め、年中行事としてリピーターを獲得している 施設が老朽し更新を進めてほしいという意見が多い ※入園者を対象に年4回のアンケート調査を実施している
	Webアンケート調査	- 公園への来園意欲が高い人々は特に花修景やイルミネーションが実施される中入口センターエリアへの関心が高い - また、アウトドアアクティビティや自然・景観への関心が高いことに加え、グルメや歴史・伝統といったその土地ならではの資源に関心を持った、目的意識の高い旅行ニーズが確認できる ※中国・四国・近畿地方在住の方（来園の有無を問わず）を対象にWebアンケート調査を実施
活用者	活動アイデアアンケート調査	（現在調査継続中、更新予定）ライトアップイベントや、伝統文化やポップカルチャーを伝えるサミット開催など各種イベントに関する提案があった ※公園でのイベント・ボランティア・教育活動等に関心がある事業者・団体・個人を対象にWebアンケート調査を実施
関係者	関係機関ヒアリング	地域ならではの資源を活用し、アクティビティや宿、食を組み合わせることで消費を促し、公園が地域の文化拠点となることが期待されている - 公園の管理運営においては、持続的な運営のための収益性を考慮する一方、文化継承の拠点としてのひばの里やクーリングシェルとしてのエントランスセンター、乳幼児や高齢者利用のための施設機能に係る公共性の担保も両立することが求められる - さらに民間の参入意欲の向上が見込める管理運営のスキームが期待されている ※公園と連携する観光団体、行政機関等に意見聴取を実施

社会的な変化と要請：自然環境がもつ価値の発信、文化の継承と創造

- 自然生態系を回復・再興していくネイチャーポジティブの考え方が世界共通の目標として浸透、企業のESG投資・CSR活動の重要性・関心も高まっています。
- 備北丘陵公園の位置する備北地域においては、今後の人口減少を背景に、里山の豊かな自然や文化、地域の魅力を守りながら発展していく里山共生都市の実現を目指しています。
- また、こうした里山の豊かさ、温かさ、暮らしやすさといった環境価値を子供たちに体験する機会が求められており、**公園として、豊かな自然環境や文化に親しむ機会を提供し、里山と共生を図り、里山環境の価値を発信していくことが求められています。**

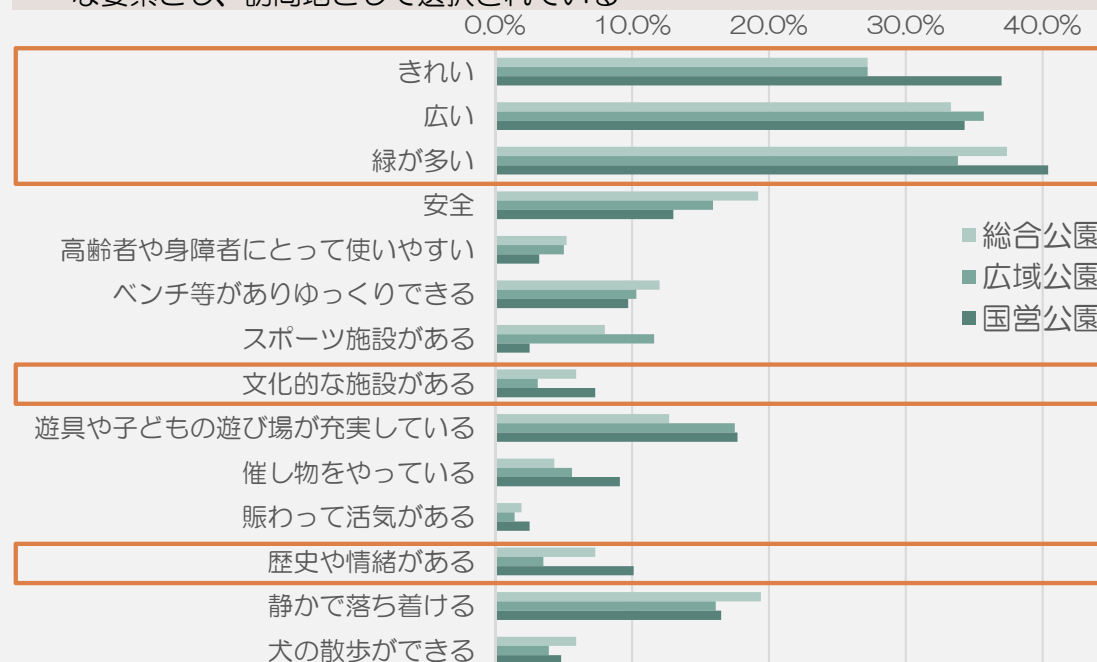
ネイチャーポジティブに向けた政策目標

- 2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復軌道に乗せることが世界共通目標に
- また、持続可能な開発のための教育（ESD）を通じたSDGsの実現が求められている



公園を訪問地として選択した理由

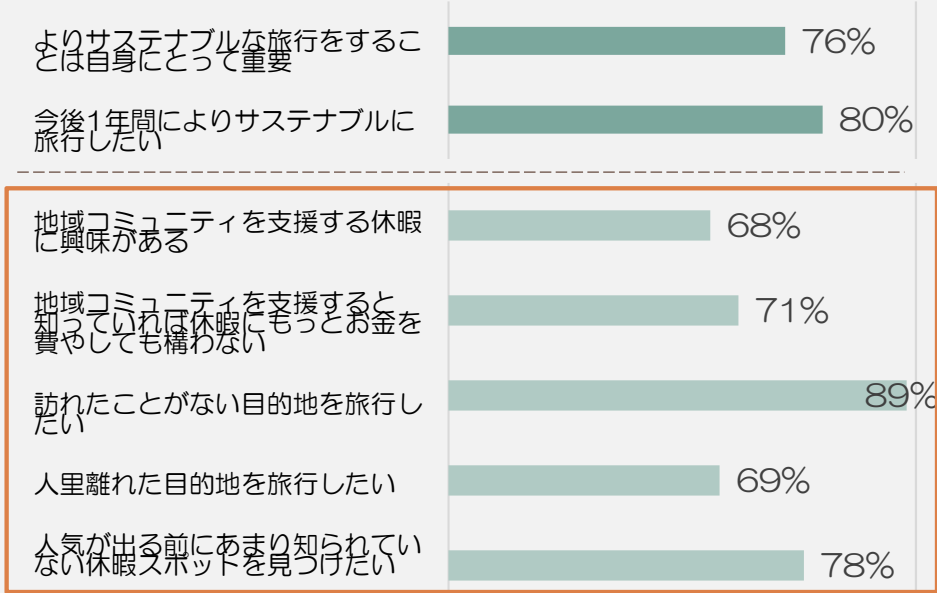
- 国営公園への緑の多さや広大さなどのほか、文化的な施設や歴史・情緒も大切な要素とし、訪問地として選択されている



社会的な変化と要請：観光・交流を通じた持続可能な地域づくり

- インバウンドをはじめとし、隠れた名所・地方への訪問意向や地域の環境に配慮した持続可能な観光への志向の高まりなど、多様な旅行ニーズが生まれています。
- 備北地域では、基幹産業である農業などの観光資源を組み合わせ、地域の魅力を活かした周遊観光ネットワークの整備による観光消費額の向上が期待されています。
- また、観光をきっかけにした地域への継続的かつ多様な形での関わり方が増えてきており、**本公園は、その誘致能力や立地、園内の資源を最大限に活かし、収益性を高めながら地域に根付く関係人口・活躍人口の拡大を図る、持続可能な地域づくりに寄与することが求められています。**

世界の旅行者の旅行志向に関するアンケート結果※



※上図は Booking.com「Sustainable Travel Report 2023」（世界の 35 か国・地域の 33,228 人を対象として 2023 年 2 月に調査実施）、下図は American Express Travel「2023 Global Travel Trends Report」（日米豪等 7 か国の年 1 回以上飛行機を利用して旅行をする人を対象として 2023 年 2 月に調査実施）に基づき観光庁作成

備北地域の観光戦略

➤ 広島県では、観光消費額の増加に向けたブランドづくりが進められており、庄原市では、里山資源にフォーカスした「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりが進められている

	広島県目標	R7 年	R12 年
観光消費額		6,300億円	8,000億円
総観光客数 (うち外国人)		8,400万人 (725万人)	1 億人

オール広島で、
世界をもてなす。
(広島県観光戦略)

- 観光消費額の増加、好循環を生み出す観光、オール広島の体制づくりの3つの課題に対し、以下を設定
- ① ブランド価値向上につながる魅力づくり
- ② 誰もが快適かつ安心して楽しめる受入環境整備
- ③ 広島ファンの増加
- ④ 3つの柱を支える土台づくり

里山の誇りを育む
観光地域づくり
(庄原市観光戦略)

- 里山資源を活かした観光消費額の向上
 - ① 里山資源の魅力化（資源磨きと観光コンテンツ開発）
 - ② 里山ステイの推進（宿泊消費額の増加）
 - ③ 里山アクティビティの推進（着地型旅行消費額の増加）
 - ④ 里山フードツーリズムの推進（特産品・飲食消費額の増加）
- 観光情報発信の強化
- 観光推進体制の強化

出典：「観光白書（令和6年度版）」、「ひろしま観光立県推進基本計画（令和5年度～令和9年度）」
「庄原市観光振興計画」より作成

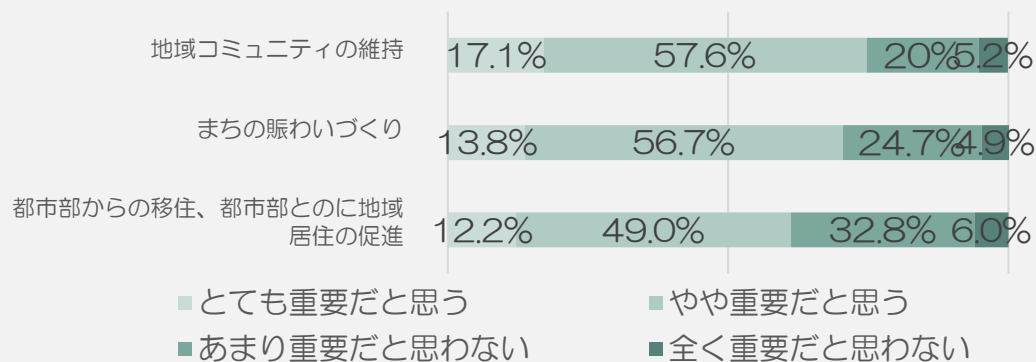
社会的な変化と要請：多様化する市民意識やライフスタイルに応える場の提供

- 場所にとらわれない働き方の進展やライフスタイルの多様化により、自然豊かな環境やWell-beingを求めた地方移住への関心が高まっています。
- 中国地方においても、多様な世代が住みやすい安心・安全な都市づくり、地域への愛着の醸成が進められており、多様な人材が活躍する、住民主体の地域づくりも積極的に進められています。
- 本公園は、これからも変化し続ける暮らし方に対し、**誰もが、いつでも安心・安全に過ごせる場**となることが求められています。

地方移住への主な関心理由

- 1位：人口密度が低く自然豊かな環境に魅力を感じたため
 2位：テレワークによって地方でも同様に働けると感じたため
 4位：ライフスタイルを都市部での仕事重視から、地方での生活重視に変えたいため

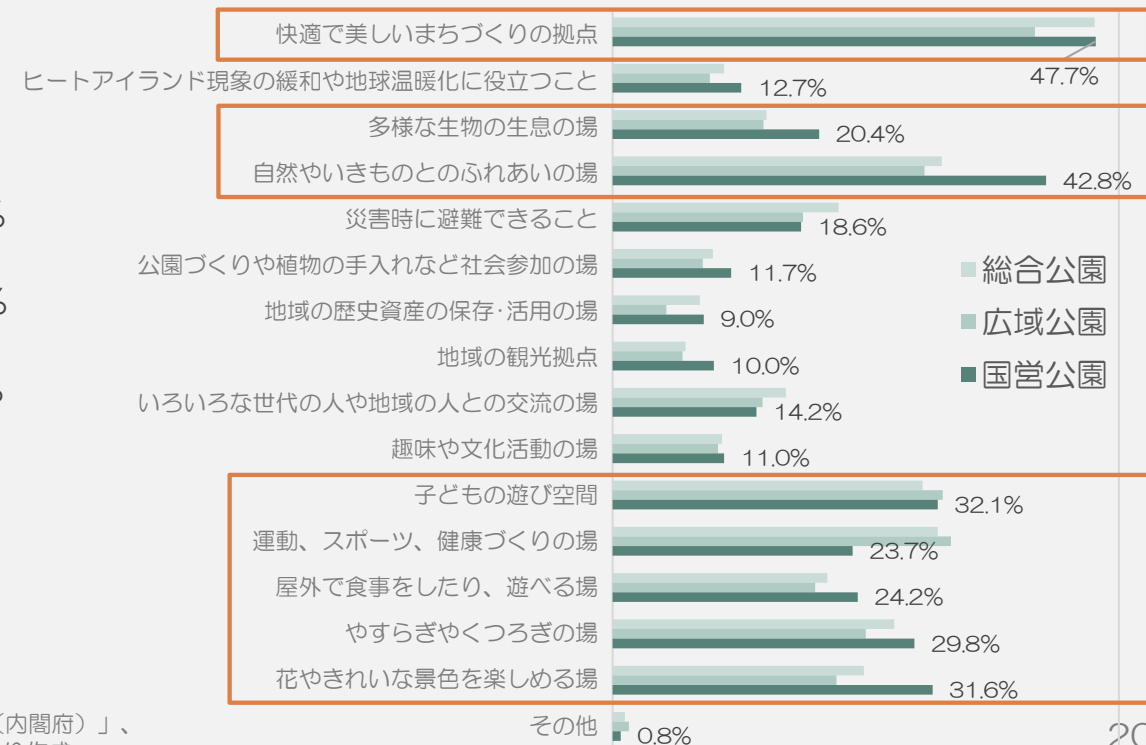
高齢社会、地域活力維持に向けた取組の方向性



- 少子高齢化の進行下にある地域では、地域コミュニティの維持や賑わいづくりへの意識は高まっている。

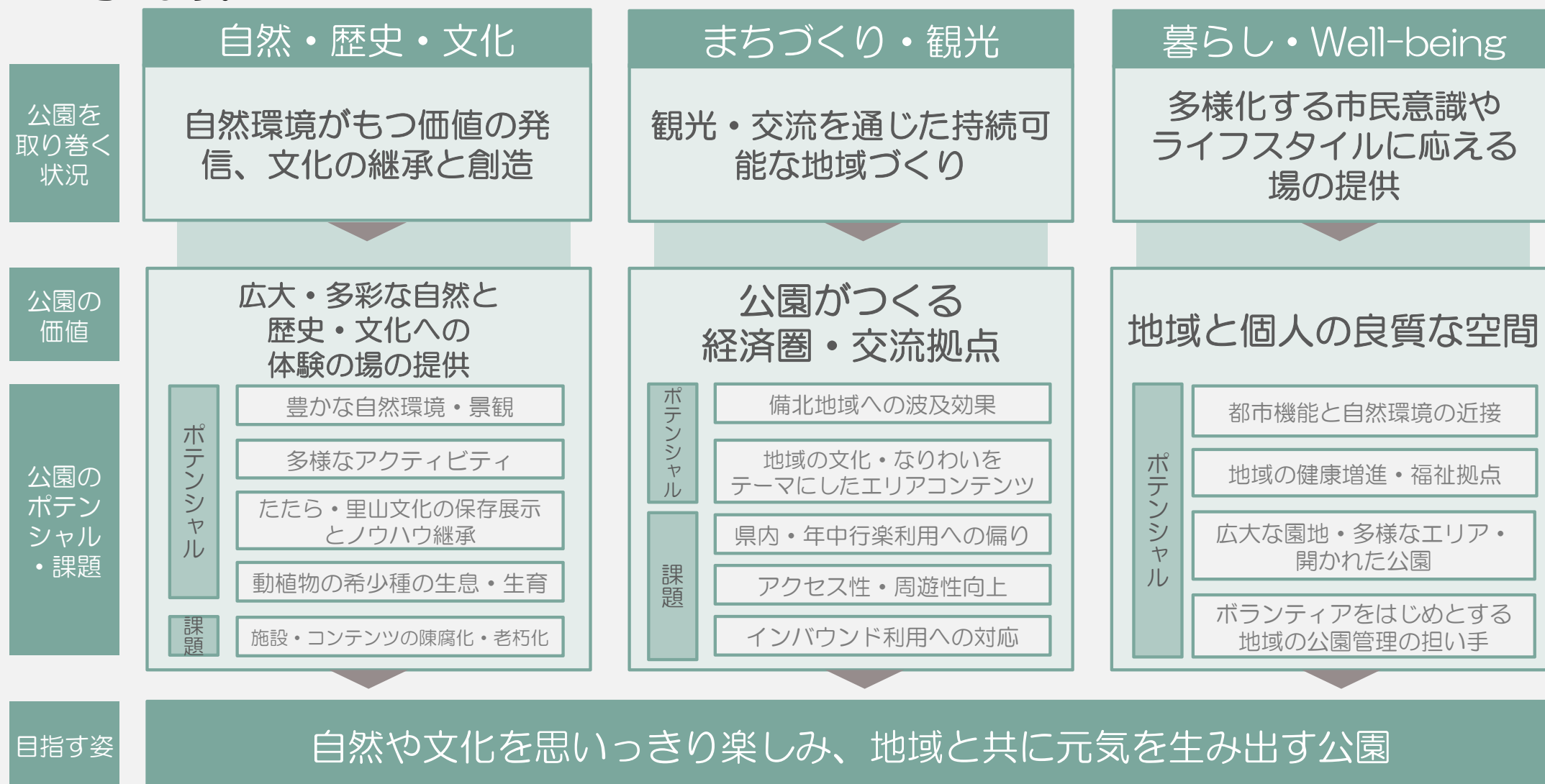
公園に期待する役割（都市基幹公園等）

- 国営公園は、まちづくり拠点、自然とのふれあい、遊び空間、健康づくり、くつろぎの場など、他の都市基幹公園等に比べ、より多様な役割が求められている



本公園に期待される価値

- 公園へのニーズ、公園を取り巻く状況を踏まえ、①広大・多彩な自然と歴史・文化への体験の場の提供、②公園がつくる経済圏・交流拠点、③地域と個人の良質な空間が、本公園に期待される価値と考えます。



民間の創意工夫を生かした持続的な経営の実現

- 本公園の管理運営は、施設の老朽化や管理運営費の圧迫、園内消費の減少などに加え、変わりつつある社会状況を踏まえ、ターニングポイントを迎えつつあります。
- これからの公園運営においては、持続的な経営の実現のため、公園に期待される価値を一層磨き上げ、集客力向上・消費の増加につなげ、さらなる価値向上につながる好循環を民間の創意工夫も生かしながら形成することが必要です。

	現状のままの公園管理運営を続けた場合		今後の公園管理運営に望まれる対応
公園の価値	- 施設の老朽化の進展（更新修繕費の増大）・一部供用の中止 - 人件費の高騰（維持管理費の増大） - 気候変動の甚大化（植栽管理費の増大） - 維持管理費の制約に伴うサービスの質の低下・公園の魅力低下	➡	- 利用者ニーズに応じたメリハリある管理運営・積極投資 - 地域との積極連携 - 公園の魅力・価値の継承・向上（期待される価値の一層の発揮）
集客	- 入園者数の頭打ち - 既存集客層の固定化（県内利用者への偏り） - 人口減少による入園者数の減少	➡	- 地域と連携した効果的なブランディング - 園内サービスの充実 - 地域活性化への寄与 - 上記による新規入園者の獲得
園内消費	- 収益施設の利用率の減少 - 園内消費の低下（園内サービスの消費額、飲食物販施設の売上など）	➡	- 多様なエリアを活かした消費機会の創出 - ニーズに応じたサービスの提供による高付加価値化 - 収益拡大・再投資によるサービスの質の向上

公園の魅力や地域貢献の低下へのリスク大

民間の創意工夫（ノウハウ）も生かしながら
持続的な公園として経営

コラム：公園で始まっている新しい取組の紹介

- 公園では、ひばの里におけるたたら製鉄技術の保存・継承を目的とした製鉄体験や、外国人初の刀鍛冶・ジョハン刀匠の活躍、北入口センターエリアに新たに設置された県立広島大学のサテライトラボなど、公園の価値を体験・発信する様々な取組が行われています。

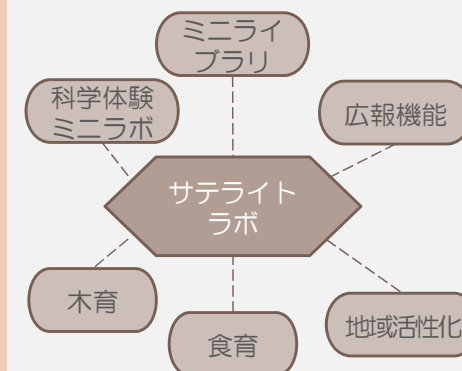
たたら製鉄の技術とその継承者たち

- 庄原市は古来から「鉄どころ」として発展を遂げてきた地域であり、たたら製鉄や鍛冶、炭焼きといった生業があった。
- たたら製鉄の技術を保有する公財・日本美術刀剣保存協会「日刀保たたら」の協力を得て、本公園では開園時よりたたら鉄づくり体験会を開催している。
- たたら製鉄より生み出される玉鋼が欠かせない日本刀製作も市内「善博日本刀鍛錬道場」で行われる。外国人として初めて刀匠資格を取得したスイス出身のジョハン・ロイトヴィラー刀匠がひばの里で作刀に励みながら、入園者にも体験指導・解説を行っている。



共同研究や学生交流を活性化するサテライトラボ

- 公園に近接する県立広島大学庄原キャンパスのサテライトラボが北入口センターエリアに令和6年より設置されている。
- サテライトラボでは、共同研究や学生交流を活性化する目的であり、以下の機能を内包する。
 - ・ 教員・学生による地域貢献活動拠点
 - ・ 中・高校生への学習支援
 - ・ 簡易植物工場、顕微鏡、レーザー加工装置等の体験
 - ・ 市民向け蔵書等の提供
 - ・ 最新研究トピック等のビデオ紹介、講義配信
 - ・ ボランティアサークルの活動拠点



地域との交流拡大のポテンシャルを持つマルシェ

- マルシェには、地域コミュニティの活性化や、生産者と消費者の直接的なコミュニケーション、地域ならではの文化の普及・発展において多くの役割を期待されている。
- 幅広い世代や、地域住民から観光客まで多くの人が関心を寄せる潜在性を有しており、集客機能としても活用が想定される。



出典：「広報しょうばら2024年4月号（庄原市）」、「備北丘陵公園管理運営プログラム（令和3年度-令和7年度）」より作成

第4 望ましい公園のあり方

1. 備北丘陵公園の目指す姿
 2. 望ましい公園の管理運営のあり方
 3. エリアごとの取組の方向性
 4. エリア間の連携の考え方
- コラム⑤ 公園の利用プラン

目指す姿

自然や文化を思いっきり楽しみ、 地域と共に元気を生み出す公園

- 公園の開園以後、自然環境の価値の体験機会への希求や、歴史や文化に触れて次なる文化をつくる豊かな土壌としての役割を果たしてきました。
- “たたら製鉄”にみられるように、当地はかつて、中国地方の資源や技術の流通起点であり、都市生活の“ルーツ（根っこ）”のひとつであったとされています。現代においても、これらの文脈に思いを馳せながら、公園・地域の魅力を最大化させることにより、中国地方にくらす方々の生活や、訪れた方の旅の一片に、新たなストーリーを提供していきます。
- 社会や周辺環境が大きく変化する中でも、本公園は、広大な敷地、多彩なフィールド、これまでの取組の蓄積を変わらぬ強みとして有しています。これらを最大限に発揮しながら、これからも、公園だからこそ実現した自然の中の空間や、その袂で育まれた里山のくらしと伝統文化などに触れ、訪れた方々の中に物語が生まれるような公園を目指します。同時に、社会情勢の変化を契機と捉え、多様なニーズに応じた公園の活用や、公園を用いた様々なチャレンジを支援するとともに、地域の財産である食文化や産業とあいまって、公園を含む地域全体がその良さを高め、広く展開するよう、地域や民間の様々なプレイヤーとともに元気いっぱいに取り組んでいきます。

取組方針

豊かな自然を、公園だからこそ実現できる空間・機会として提供する

公園だからこそ、安心して自然環境に親しめる空間・機会を提供し、様々な利用者ニーズに対応します

①豊かな自然へのふれあい・体験の提供

②多様なアクティビティの提供

③開かれたサードプレイスの提供

中国地方の歴史・文化の源泉にふれ、暮らしとなりわいの面白さをひろげる

歴史・文化や、暮らしとなりわいの体験を通じ、その魅力をひろく伝えるとともに、継承につなげます

④歴史・文化（たたら・里山・なりわい）の保存・活用

⑤ものづくり・暮らしへのふれあい・体験の提供

備北・里山・公園ブランドを活かした集客・賑わいの拠点としての役割を担う

備北地域ならではの資源を組み合わせ、集客・賑わいを創出し、地域周遊・広域連携につなげます

⑥新たな集客・賑わいの創出

⑦地域周遊の拠点化

⑧多世代交流の促進・活躍人口の創出

様々なプレイヤーによる新たなチャレンジ・創造を支援し、社会に還元する

広大で多様なフィールドを活かし、様々なプレイヤーの新たなチャレンジや取組を支援し、社会に発信します

⑨自然教育・実証研究の場の提供

⑩多様な公園活用の促進

官民の連携による持続的な公園経営を実現する

民間の力も活用し、柔軟な管理のもと多様なサービスを提供し、時代や環境に応じた公園の価値をアップデートします

⑪柔軟な管理運営

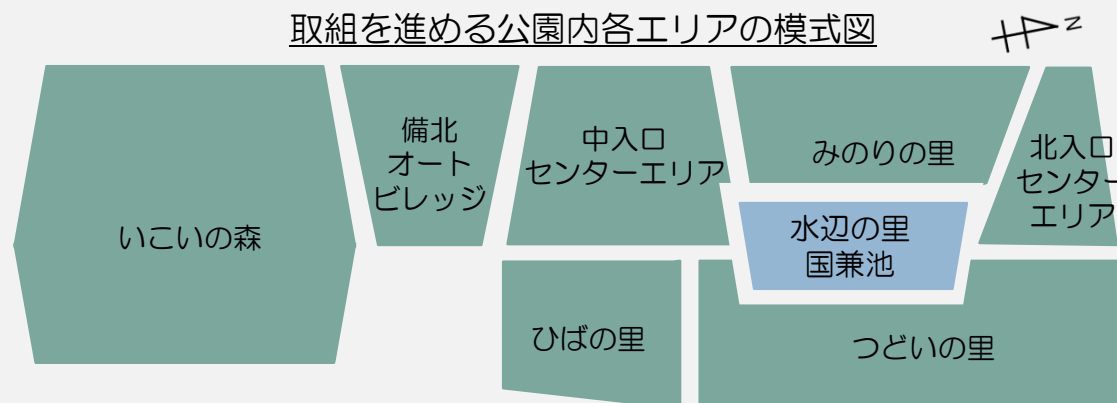
⑫園内消費の増加

⑬サービスへの再投資・更新

エリアの強みを活かし・つなげる公園の管理運営

- 取組方針を踏まえ、公園内の各エリアで管理運営ビジョンの実現に向けた取組を進めていきます。
- 各エリアでの取組は、エリアの持つポテンシャルを活かしながら、柔軟な管理運営の中で適切に更新・適正化を図ります。
- また、公園内の各エリアの連携を図るとともに、以下の課題に対応していきます。

取組を進める公園内各エリアの模式図



公園全体での 取組の 方向性	- 各エリアの相互利用の推進 - 園内移動の快適性の向上（移動サービスの充実） - 園内利用の快適性の向上（老朽化施設への対応、管理水準の見直し、利用案内の充実など） - 園内施設の利用率の向上 - 地域連携の強化（広域的な利用促進など） - 柔軟で効率的な公園運営				
今後の 対応方針 (案)	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="371 1129 477 1297">◎</td><td data-bbox="477 1129 2130 1297"> - 施設の更新、体験の充実、季節や状況に応じた柔軟で弾力的な公園サービスの検討、移動サービスの充実（園内・園外アクセスの強化）、サインの充実・地図・多言語対応、バリアフリー対応、効果的な広報活動の充実、地域連携機能・体制の強化 </td></tr> <tr> <td data-bbox="371 1297 477 1402">○</td><td data-bbox="477 1297 2130 1402"> - 散策路などの施設の適正化 </td></tr> </table>	◎	施設の更新、体験の充実、季節や状況に応じた柔軟で弾力的な公園サービスの検討、移動サービスの充実（園内・園外アクセスの強化）、サインの充実・地図・多言語対応、バリアフリー対応、効果的な広報活動の充実、地域連携機能・体制の強化	○	散策路などの施設の適正化
◎	施設の更新、体験の充実、季節や状況に応じた柔軟で弾力的な公園サービスの検討、移動サービスの充実（園内・園外アクセスの強化）、サインの充実・地図・多言語対応、バリアフリー対応、効果的な広報活動の充実、地域連携機能・体制の強化				
○	散策路などの施設の適正化				

※「今後の対応方針（案）」は現時点の対応の方針を例示として示すものであり、民間事業者の提案や社会の変化に合わせて対応を図ります。

【◎】とは、中期的な対応として、官民ともに積極的な取組を行い、民間事業者のノウハウの活用にも期待している部分

【○】とは、長期的に検討を行う部分として、当面現状の管理を行い、今後、施設の状況や利用者のニーズの変化に応じてサービス内容の適正化・柔軟な管理や利活用方法を検討していく部分

中入口センターエリア： 花とイルミを存分に味わえる賑わいの中心



基本計画での
整備の考え方

- 公園利用者が集い憩える場、公園利用と公園管理の拠点

エリアの
ポテンシャル
・課題

- 花の広場は春・秋・冬（イルミ）において集客の中心として活用されているが、修景にかかる維持管理費も大きく、一定の閉鎖期間が発生しており、閉鎖期間中の公園全体の利用に関する工夫が必要
- 庄原の旧学校を模した特徴的な意匠のビジターセンターは園内の大きな収入源となっており、魅力向上・消費拡大が必要

本エリアで期
待される機能

- ①豊かな自然へのふれあい・体験の提供
- ⑥新たな集客・賑わいの創出
- ⑧多世代交流の促進・活躍人口の創出

想定される主
なターゲット

- 個人～グループ
- 中高年層
- SNSユーザー

取組の
方向性
(イメージ)

- 花修景や収益施設の充実による公園の見どころとして集客力を向上
- 新たな客層の獲得に向けたブランディング活動の中心として機能

今後の
対応方針
(案)

◎

○

- 集客機能の充実
- ブランディング（花・イルミ）強化
- 修景のブラッシュアップや適正化



花の広場・備北イルミ

- 広場中央の展望スポットやイルミ動線の眺望を活かしたブランディング強化・集客力向上



ビジターセンター

- 修景イベントや中の広場を活かしたイベントとの連携・連動による消費拡大

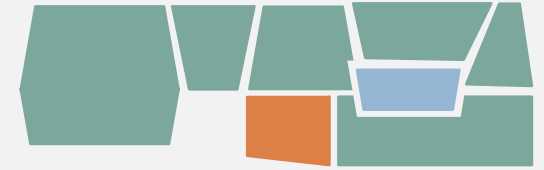
※「今後の対応方針（案）」は現時点の対応の方針を例示として示すものであり、民間事業者の提案や社会の変化に合わせて対応を図ります。

【◎】とは、中期的な対応として、官民ともに積極的な取組を行い、民間事業者のノウハウの活用にも期待している部分

【○】とは、長期的に検討を行う部分として、当面現状の管理を行い、今後、施設の状況や利用者のニーズの変化に応じてサービス内容の適正化・柔軟な管理や利活用方法を検討していく部分

ひばの里：

里山の魅力にあふれる歴史・文化の拠点



基本計画での整備の考え方

- ・ 伝統的な和風空間の中で地域の伝統文化・工芸・日本古来の生活の知恵に触れ、楽しみながら認識、体得し、豊かな生活を実現するきっかけとなる余暇を過ごせる場

エリアのポテンシャル ・課題

- ・ 中国地方における里山の風景を再現し、年間を通じた様々なイベントによる園内体験の目玉のひとつ
- ・ 文化継承やボランティア活動の場としても利用されており、さとやま屋敷は質の高い管理がされている一方、利用率の低い施設もあり、施設管理と利用のバランスを図ることが必要

本エリアで期待される機能

- ④歴史・文化（たたら・里山・なりわい）の保存・活用
- ⑤ものづくり・暮らしへのふれあい・体験の提供
- ⑧多世代交流の促進・活躍人口の創出

想定される 主なターゲット

- ・ ファミリー層～高齢者層
- ・ ここにしかない体験を求める旅行者
- ・ 学習利用の団体（小中学校の課外授業等）

取組の方向性 (イメージ)

- ・ 歴史・文化の紹介機会・体験機会の充実を図り、地域の文化的資源との連携も推進
- ・ 一部施設・サービスの高付加価値化による収益の拡大

今後の対応方針 (案)

◎

- ・ 体験コンテンツ（歴史・文化・自然）の充実

○

- ・ 高付加価値施設への転換



さとやま屋敷

- エリア全体で一貫した体験コンテンツ（暮らし体験）の充実
- 高品質な維持管理を活かし、高付加価値施設への転換



たたら工房

- たたら工房をはじめとする各工房での体験コンテンツの充実・施設利用率の向上
- 公園を拠点にした文化体験ネットワークの形成

※「今後の対応方針（案）」は現時点の対応の方針を例示として示すものであり、民間事業者の提案や社会の変化に合わせて対応を図ります。

【◎】とは、中期的な対応として、官民ともに積極的な取組を行い、民間事業者のノウハウの活用にも期待している部分

【○】とは、長期的に検討を行う部分として、当面現状の管理を行い、今後、施設の状況や利用者のニーズの変化に応じてサービス内容の適正化・柔軟な管理や利活用方法を検討していく部分

つどいの里： 思いっきり遊べる様々なアクティビティの拠点



基本計画での
整備の考え方

- ・ 子供から高齢者まで年間を通じ利用できる活動的なエリアで、誰もが気軽に体力や健康づくりができる場

エリアの
ポテンシャル
・ 課題

- ・ グラウンドゴルフ、軽スポーツや大型遊具、林間アスレチックなど多様なアクティビティを提供
- ・ 一方、芝生広場・屋外ステージの大規模イベント利用率は低く、今後のニーズを踏まえた提供アクティビティの見直し、イベントの強化（イベントの幅、地域連携等）が必要
- ・ レストハウスは利用期間が限られており、収益率が低い状況

本エリアで期
待される機能

- ②多様なアクティビティの提供
- ③開かれたサードプレイスの提供
- ⑥新たな集客・賑わいの創出

想定される主な
ターゲット

- ・ 小さな子供のいるファミリー層
- ・ 近郊在住の高齢者層

取組の
方向性
(イメージ)

- ・ 自然を活かした多様なレクリエーション、アクティビティの充実・集約
- ・ 消費拡大につながるイベント等の誘致

今後の
対応方針
(案)



- ・ 必要に応じたイベント誘致
- ・ アクティビティの適正化



芝生広場・
野外ステージ

- 芝生広場や野外ステージを活用した多様なイベントの誘致・園内消費の拡大



大型複合遊具・
林間アスレチック

- 老朽化施設の適正化



収益施設

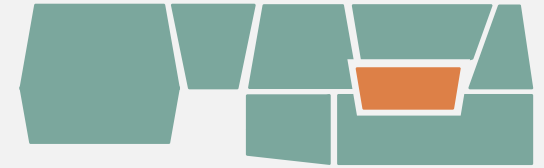
- 老朽化施設の適正化

※「今後の対応方針（案）」は現時点の対応の方針を例示として示すものであり、民間事業者の提案や社会の変化に合わせて対応を図ります。

【◎】とは、中期的な対応として、官民ともに積極的な取組を行い、民間事業者のノウハウの活用にも期待している部分

【○】とは、長期的に検討を行う部分として、当面現状の管理を行い、今後、施設の状況や利用者のニーズの変化に応じてサービス内容の適正化・柔軟な管理や利活用方法を検討していく部分

水辺の里国兼池：安らぎの水辺空間



基本計画での整備の考え方

- 国兼池と湖畔の水や自然を生かしたやすらぎの場
- 水辺・水上レクリエーションを行い、ゆったりと静かな時間を過ごすことができる場

エリアのポテンシャル・課題

- 県内最大のため池である国兼池の景観・環境を活かしたカヌー体験や野鳥観察、フィッシングエリアとなっている一方、ウッドデッキ等の一部施設は老朽化が著しく、計画的な更新修繕が必要
- 水辺を生かしたエリアの魅力向上や快適性向上が必要
- 一部の施設の高付加価値化による消費の創出可能性

本エリアで期待される機能

- ①豊かな自然へのふれあい・体験の提供
- ③開かれたサードプレイスの提供
- ⑨自然教育・実証研究の場の提供

想定される主なターゲット

- 20～40代
- 近郊在住の高齢者層
- 個人・グループ

取組の方向性（イメージ）

- エリアへの滞留の向上・快適性の向上に資する施設の適正化・再投資

今後の対応方針（案）

◎

- アクティビティの適正化
- 自然体験・学習の充実

○

- 高付加価値な施設の設置、施設・園路等の更新修繕



カヤック・SAP体験

- 水辺を生かしたアクティビティを提供



フォトスポット

- 水辺空間を生かしたフォトスポット・ミニテント等整備

※「今後の対応方針（案）」は現時点の対応の方針を例示として示すものであり、民間事業者の提案や社会の変化に合わせて対応を図ります。

【◎】とは、中期的な対応として、官民ともに積極的な取組を行い、民間事業者のノウハウの活用にも期待している部分

【○】とは、長期的に検討を行う部分として、当面現状の管理を行い、今後、施設の状況や利用者のニーズの変化に応じてサービス内容の適正化・柔軟な管理や利活用方法を検討していく部分

北入口センターエリア： まちに開かれた交流の拠点

3. エリアごとの取組の方向性



基本計画での 整備の考え方

- 公園利用者が集い憩える場、公園利用と公園管理の拠点
- 北入口はメインエントランスとし、市街地からのアイストップとなるシンボル性・国兼池の眺望を活かした宿泊拠点

エリアの ポテンシャル ・課題

- 公園のエントランスのひとつであり、公園利用の起点
- 公園の園内消費の収入源でもある一方、2階をはじめとする施設利用率の低下が課題となっており、コンテンツや収益サービスの充実による魅力向上・消費拡大が必要
- 庄原市との連携を行っており、周遊観光につながるイベントやコンテンツを提供する場所として、機能強化が必要

本エリアで期 待される機能

⑥新たな集客・賑わいの創出

⑦地域周遊の拠点化

⑧多世代交流の促進・活躍人口の創出

⑨自然教育・実証研究の場の提供

⑩多様な公園活用の促進

想定される主
なターゲット

- 地域の方々
- 小さな子供のいるファミリー層
- 学習利用の団体（県立広島大学のサテライトラボ利用者等）

今後の
対応方針
(案)



- （地域と連携した）集客機能の充実

取組の 方向性 (イメージ)



各種イベント

- 人々を呼び込むイベントを開催し、人々が公園に集うきっかけの創出

※「今後の対応方針（案）」は現時点の対応の方針を例示として示すものであり、民間事業者の提案や社会の変化に合わせて対応を図ります。

【◎】とは、中期的な対応として、官民ともに積極的な取組を行い、民間事業者のノウハウの活用にも期待している部分

【○】とは、長期的に検討を行う部分として、当面現状の管理を行い、今後、施設の状況や利用者のニーズの変化に応じてサービス内容の適正化・柔軟な管理や利活用方法を検討していく部分

みのりの里：四季の風景を感じられる丘



基本計画での整備の考え方

- 花木・果樹園芸にふれ、その収穫・加工の楽しさを体験することで、地域産業・自然生産物のよさを再認識し、利用者各自の生活の中へ取り入れるきっかけの場

エリアのポテンシャル・課題

- スイセンガーデンをはじめとする花修景はあるが季節が限定的であり、エリアの利活用に関する工夫が必要（現在は自主事業によりグランピング施設を設置）

本エリアで期待される機能

- ③開かれたサードプレイスの提供
- ⑤ものづくり・暮らしへのふれあい・体験の提供
- ⑥新たな集客・賑わいの創出
- ⑩多様な公園活用の促進

想定される主なターゲット

- 20～50代
- 個人・グループ

取組の方向性（イメージ）

- 柔軟な管理・利活用方法の検討

今後の対応方針（案）

○

- 柔軟な管理・利活用方法の検討



各種修景施設

- 柔軟な管理・運営
- 新たな利活用方針を検討

※「今後の対応方針（案）」は現時点の対応の方針を例示として示すものであり、民間事業者の提案や社会の変化に合わせて対応を図ります。

【◎】とは、中期的な対応として、官民ともに積極的な取組を行い、民間事業者のノウハウの活用にも期待している部分

【○】とは、長期的に検討を行う部分として、当面現状の管理を行い、今後、施設の状況や利用者のニーズの変化に応じてサービス内容の適正化・柔軟な管理や利活用方法を検討していく部分

備北オートビレッジ： 自然の中でプライベートな宿泊体験ゾーン



基本計画での 整備の考え方

- 公園の野外活動や野外宿泊利用の拠点
- 里山の自然とレクリエーションによりコミュニケーションを深めながら野外活動の楽しさを認識し知識・技術を体得する場

エリアの ポテンシャル ・課題

- オートキャンプ場として、宿泊拠点・アウトドア体験を提供しているが、設置から20年を経過する施設の老朽化が顕著であり、計画的な更新・修繕が必要
- キャンプレジャーも多様化しており、新たな利用者層の獲得に向け、ニーズに応じた魅力的な施設の設置等の可能性

本エリアで期 待される機能

- ①豊かな自然へのふれあい・体験の提供
- ③開かれたサードプレイスの提供

想定される主な ターゲット

- 小さな子供のいるファミリー層
- 個人・グループ

取組の 方向性 (イメージ)

- 利用率・収益性に見合った施設・サービス適正化
- 利用率の向上に資する再投資

今後の 対応方針 (案)

◎

- 施設の修繕更新・適正化

○

- 宿泊機能・日中利用の強化



キャンプサイト・ コテージ

- 施設の修繕更新、老朽化施設の適正化
- 宿泊機能強化

※「今後の対応方針（案）」は現時点の対応の方針を例示として示すものであり、民間事業者の提案や社会の変化に合わせて対応を図ります。

【◎】とは、中期的な対応として、官民ともに積極的な取組を行い、民間事業者のノウハウの活用にも期待している部分

【○】とは、長期的に検討を行う部分として、当面現状の管理を行い、今後、施設の状況や利用者のニーズの変化に応じてサービス内容の適正化・柔軟な管理や利活用方法を検討していく部分

いこいの森：深く、ワイルドな森林空間



基本計画での整備の考え方

- 丘陵景観を生かし、人々が集い、憩い、遊び、自然を観察し、自然とふれあうことができる場
- 地域産業である農林・畜産業に触れ、その技術を体験することで、体験した知識や技術を活かしより豊かな生活とするきっかけの場
- 埋蔵文化財に触れ、地域の歴史を再確認できる場

エリアのポテンシャル・課題

- 自然環境の保全の実践・ふれあい機会の提供エリア
- カブトムシドームが自然に触れあう集客コンテンツの目玉となっているものの、期間が限定的
- 散策路等の利用者のための維持管理費も相応に発生しており、利用が少ない範囲について管理水準の検討が必要

本エリアで期待される機能

- ①豊かな自然へのふれあい・体験の提供
- ⑨自然教育・実証研究の場の提供

想定される主なターゲット

- 小さな子供のいるファミリー層
- 学習利用の団体（森林研究を行う企業等）

取組の方向性（イメージ）

- 柔軟な管理水準の見直し
- 自然環境の保全・体験に係るボランティア活動継続
- 産官学連携による自然教育の場の提供

今後の対応方針（案）

◎

- 自然体験や自然環境教育の充実

○

- 散策路の適正化



体験学習

- 自然体験を拡充し、自然環境に関する教育の場



散策路

- 柔軟な管理・運営

※「今後の対応方針（案）」は現時点の対応の方針を例示として示すものであり、民間事業者の提案や社会の変化に合わせて対応を図ります。

【◎】とは、中期的な対応として、官民ともに積極的な取組を行い、民間事業者のノウハウの活用にも期待している部分

【○】とは、長期的に検討を行う部分として、当面現状の管理を行い、今後、施設の状況や利用者のニーズの変化に応じてサービス内容の適正化・柔軟な管理や利活用方法を検討していく部分

エリアをつなげてマルチな体験を提供

- 公園内の各エリアの様々なコンテンツを有機的に連携し、総合的な満足度の高いサービスプランを提供することにより、一層公園の価値を高めていきます。

エリア間の連携の例：ニーズによる連携

- 本公園に求められるあそび・いやし・まなびといったニーズを視点として、各エリアのサービスを横断していくことで、里山が生み・育てたものから作り・遊び・食べるといった生活のサイクル全体の体験を提供する。

各エリアの
連携の考え方

拠点をきっかけに足をのばす
魅力を発見する
また来たくなる

自然の魅力に親しむ # 賑わいがある # 思いっきり体を動かす

北入口センターエリア

備北オートビレッジ

中入口センターエリア

つどいの里

質の高く落ち着いた空間
ゆっくりできる
健康になれる

水辺の里国兼池

みのりの里

ひばの里

あそび要素

いやし要素

まなび要素

ここにしかない # 深いものに触れる
新しい体験・挑戦
豊かな自然を体験できる
ここから共創する

ひばの里

いこいの森

北入口センターエリア

コラム：公園の利用プラン①一日中遊びつくす！ファミリー層

ターゲット像

- ・ 広島県内から車で来園する4人家族
- ・ 春と夏は必ず公園でキャンプをすることが家族の年中行事
- ・ 子どもたちは小学校低学年～中学年

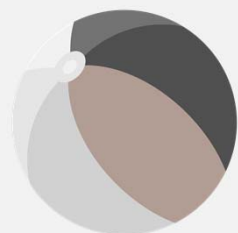


価値観 行動指針

- ・ 周囲を気にせず、活発に動けることを重視
- ・ 住宅地では体験できない自然を子どもに体感させたい
- ・ 子どもたちはとにかくアクティブに遊び続けたい
- ・ キャンプは好きでも、宿泊する施設は清潔で設備が最新だと嬉しい

モデルプラン

①つどいの里



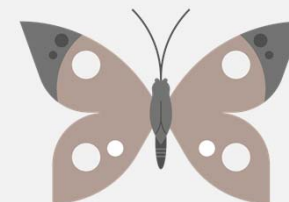
- ・ 広島から高速道路で朝一番に到着
- ・ 暑さも厳しくない朝のうちにアスレチック遊具で遊ぶ

②水辺の里国兼池



- ・ 行きがけに購入したお弁当を国兼池のほとりで景色を見ながら食べる

③いこいの森



- ・ 自然の中でハイキング
- ・ カブトムシドームで大発見
- ・ その後、子どもたちは虫捕りに興じる

④備北オートビレッジ

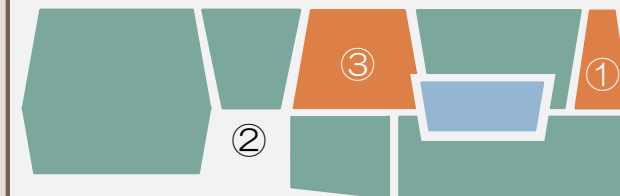


- ・ 新しくなったオートビレッジでBBQ
- ・ 翌日は森の様々な音を聞きながら目を覚ます

コラム：公園の利用プラン②思い出を作りたい20代カップル層

ターゲット像

- ・ 隣接する県から車で来園する20代カップル
- ・ 週末はいつも一緒に過ごしている
- ・ 自宅の近隣施設は行き尽くし、新たな目的地を模索中



価値観 行動指針

- ・ SNS映えを重視。満足度はお墨付きの評価の高い場所で安心して過ごしたい
- ・ アクティブで話題性があるイベントに関心が高い
- ・ 一緒に回って楽しい！思い出に残る体験をしたい

モデルプラン

三次市内



- ・ 疲れる前にお土産を！
- ・ 三次でワインを購入

①北入口センターエリア



- ・ 昼過ぎに到着し、地域の産直市へ
- ・ 屋台で昼食を購入

②公園全域



- ・ ロードトレインで公園を一周回る
- ・ 途中キッチンカーでコーヒーを購入

③中入口センターエリア

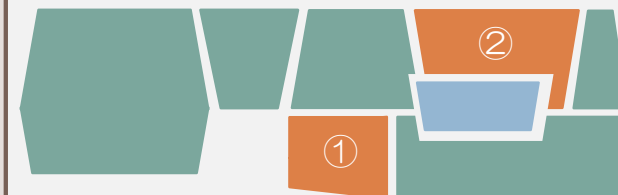


- ・ イルミネーションを鑑賞
- ・ 撮影した写真はInstagramに投稿

コラム：公園の利用プラン③こだわりのシニア世代／インバウンド

ターゲット像

- ・ 自宅が近いアクティブシニアの5人組
- ・ 時間に余裕があり、数日かけて遠方でも足を運ぶ仲間内での「部活動」が盛ん
- ・ スケッチや短歌を制作しあう



価値観 行動指針

- ・ 本物を志向し、その場所ならではの体験やグルメの満喫を重視
- ・ まだ知られていない土地の魅力を発掘したい
- ・ 映像で見るだけではなく、自分の目で見てみたい

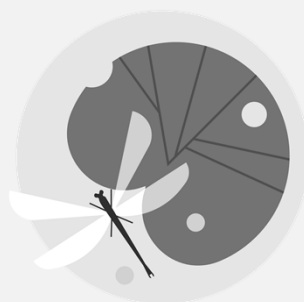
モデルプラン

尾道～庄原



- ・ 尾道で泊、坂のまちを巡り、瀬戸内を楽しみつつも足腰が少々辛い
- ・ 庄原市内で宿泊し、温泉を楽しむ

①ひばの里



- ・ たたら鉄づくりの様子を見学
- ・ さとやま屋敷で里山の食材を使ったランチに舌鼓を打つ

②みのりの里



- ・ 国兼池の景色とネモフィラを楽しむ
- ・ ゆっくり腰を据えて水彩画を描く

比婆いざなみ街道



- ・ 街道に沿って熊野神社や帝釈峡を周遊
- ・ 古代ロマンや雄大な自然景観に思いを馳せる

第5 ビジョンの推進方法

ビジョンの実現に向けた推進のしくみ

確実な管理運営ビジョンの推進に向けて

- 管理運営ビジョンの実現に向けて、公園を取り巻く状況の変化に適時適切に対応し、官民の多様な主体が協働しながら推進していきます。

各自の強みを活かした協働推進体制

- 国・管理運営事業者・公園関係者・学識経験者等のビジョン関係者が協働・支援しあえる推進体制を整備します

共通目標の下での推進・進捗の管理

- ビジョンを確実に実現するため、各主体の取組内容に基づき、共通目標を設定します
- 定期的なモニタリングを通じて進捗管理・目標達成を確認・推進します

社会情勢の変化への対応

- 社会情勢等の公園を取り巻く状況変化に応じて、計画が硬直化しないよう、適切にビジョンを見直し・更新します

管理運営ビジョンの推進体制（案）

